



令和6年度

国語

(9 : 10 ~ 10 : 00)

注 意

- 1 検査開始のチャイムになるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから10ページに、問題が一から三まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「星野さんは、どうして文章を書くのですか？」

小さいノートにメモをしながら、プリントした質問案を両手に握りしめながら、ノートパソコンを①カタワらに置きながら、取材でインタビューをしてくれる方々は、キラキラと表情を輝かせながらそう訊いてくれる。

本当に良い言葉を期待してくれている時もあるし、興味はないが仕事だから失礼のないように、しっかり興味があるように演技をしてくれている時もある。どちらも本当にありがたい。

「俳優としても音楽家としてもお忙しいのに、文筆活動をされる理由は何ですか？」

エッセイに夢中になったのは16歳の時である。

松尾スズキさんの『大人失格』、そして宮沢章夫さんの『牛への道』。

名著と謳^{うた}われる2つのエッセイ集を読んだことがきっかけだった。学校の中で小さな演劇活動をする最中、上演できそうな戯曲を探すために立ち寄った本屋の演劇コーナーでふと手に取った。文字を読んで腹をaほど笑ったのは初めての経験だった。

子供の頃から読書が苦手であった。感覚で読んでしまえるマンガは大好きでいつまでも読んでいられたが、随筆や小説などは読んでいる最中に必ず違うことを考えてしまい、ぼんやりしながらページだけ

が進み、気がついた時には地方鉄道で寝過ごしてしまったく知らない駅に着いてしまった時のように、bでひとり迷子になった。

しかし、その2つのエッセイは最後のページまで自分の手を握ったまま、本の中の終着駅まで連れて行ってくれた。

二人に憧れて、文章を書けるようになりたいと思うようになりまして。そう答えることが一番多い。

「素敵ですね！」

文筆のことを訊いてくれる人は、本のお話をすると喜んでくれる方が多い。だからもちろん嘘^{うそ}ではない、その答えを話すようにしている。

でも、¹もう一つ理由がある。

実はこちらのほうが本格的に文章を書く理由としては大きいものだった。取材としてはつまらないことかもしれないので、あまり大きな声では言えなかった。

メールを書くのがものすごく下手だったのである。

壊滅的だった。センスのかけらもない。今軽く思い出しても胃のあたりが凹^こんだような苦しい感覚に②オチイ^{注1}る。自分のメールを受け取ってしまった人は、呪いのスパムメールを受け取った人よりも③メイワク^{注1}だっただろうと回顧する。

中略

本来言いたいことと、実際書かれている言葉がなんだか違うことはわかるのに、他に思いつかない故に送信ボタンを押すしかない切なさ。

しかし時間が経つにつれ、様々な仕事が増え、メールの必要性はどんどん増していった。どれだけメールを送っても、考えても、書き直しても、文章は一向にうまくならなかった。

だったら仕事にしてみよう。

無理矢理にでも仕事としてやれば、他人の目にも留まるだろうし、下手な文章なら編集さんや世間から否定的な反応があるはずだ。強制的に切磋琢磨せつさくたくまできる。もし、自分の文章がうまくなりいつか誰かに褒められたなら、それは④ジッセンがセンスというものを凌駕りやうがした瞬間であると思った。

個人的に知り合いの編集者さん数人に会いに行き、なんでもいいから書かせてくださいとお願いすると、ありがたいことに雑誌の欄外一言コラムをやらせてもらえることになった。

しかし、書いていても、ちっとも楽しくない。自分のセンスのなさに向き合い続けなければならないからだ。納得がいなくても締め切りには提出しなければならない。

そうこうしていくうちに任される文字数はなぜかどんどん増えていき、いつの間にか自分の本が出ることになり、何年も書き続けた結果、今では自分の想いおもをそのまま言葉にできるようにになった。

メールを書くことも苦ではなくなった。むしろ物事をじっくり時間をかけて伝えることができるので、喋しゃべることよりも自由を感じるようになった。

今は文章を書くことが、とても楽しい。

中略

[A] そして自分でも文筆家としてエッセイを書くこと、目で見た景色と、心の中の景色を描写することが、一種のヒーリング注3のようになっていく。

[B] どんなにたわいないことでも、それをうまく文章にできた時、心の中が綺麗きれいに整頓されたように、掃除したての湯船に入り、綺麗に体を洗ったようにすっきりとした気持ちになった。

「星野さんは、どうして文章を書くのですか？」

[C] 実際の答えとしては、こういったことでもとても気持ちが良いからです。と言いたいところなのだが、説明が長くなってしまっているので、松尾さんと宮沢さんに懂れて、とこれからも答えてしまうかもしれない。

[D] 今後の課題は、もっと簡潔かつ自由に喋り、相手に伝わる言葉で心のままに話せるようになることである。

（星野源「いのちの車窓から」による。）

（注1）スパムメール＝受信者の意向を無視して一方的に送り付けられるメールのこと、迷惑メールとも呼ばれる。

（注2）凌駕＝他のものを越えてそれ以上になること。

（注3）ヒーリング＝いやすこと。いやし。治療。治癒。

1 ①～④のカタカナに当たる漢字を書きなさい。

2 a に当てはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 決める イ たてる ウ 抱える エ 割る

3 b に当てはまる適切な表現を、文章中から三字で抜き出して書きなさい。

4 1 もう一つ理由がある とあるが、どのような理由ですか。二十
五字以内で簡潔に説明しなさい。

5 次の【段落】は、文章中の形式段落 A ～ D いずれのあとに挿入すればよいか。最も適切な段落を、A ～ D の中から選び、その記号を書きなさい。

【段落】

私は何を見たのか。どんな風景を見て心が動いたのか。その動き方はどんな様子だったのか。そこから何を考えたのか。

6 小田さんの学級では、中学校三年間を振り返る文集を作成することになりました。次の【生徒の会話】は、国語の時間に読んだこの

文章の内容を踏まえて、文集に書く内容を検討している様子です。これを読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

【生徒の会話】

小田… 「三年間を振り返る」といっても、そもそも何から書いたら良いのか分からないな。私は文章を書くのが苦手だから「書くのがものすごく下手だった」という星野さんに親近感を持ったよ。どうして星野さんは書けるようになったんだろう。

竹本… 星野さんは「1」からだと言っているよ。
市川… いい考えだね。a お金をもらうんだから責任感も持てるね。

福井… 何から書いたら良いのか分からないのなら、例えば身近な話題から始めてみたらどうか。b 好きなことや興味があることから書くと、自然と次に書く内容も浮かんでくるよ。

小田… それは先生にも言われたな。どうしてなんだろう。
福井… 自分の好きなことについて、感じたことや考えたことを誰かに伝えてみたいという気持ちが湧いてくるからじゃないかな。

小田… でも、星野さんは好きなことを書いていたはずなのに楽しくなかったみたいだよ。

竹本… 星野さんは、㉔ 締め切りがあるから、書いた文章に納得がいなくても提出しなければならなかったみたいだね。それなのにどうして楽しくなったんだろう。

市川… 星野さんには、文章を読んでもくれる人や、「Ⅱ」人がいたからじゃないかな。

小田… そうか、㉕ 友達と書いた文章を読み合ったり、質問し合ったりしながら文章を何度も検討することが大切なんだね。

(1) 空欄Ⅰに当てはまる適切な表現を、文章の内容を踏まえ、「センス」という語を用いて、三十字以内で書きなさい。

(2) 空欄Ⅱに当てはまる適切な表現を、文章の内容に即して八字以内で書きなさい。

(3) ㉖㉗の中から文章の内容に合うものとして最も適切なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

安野光雅のエッセー「ものの形」(『わが谷は緑なりき』)は、「しゃぼん

だまはまるい。だれがつくつてもまるいたまだ。」で始まります。ちよつととばして、次の文章を読みましよう。

芋の葉の露もまるいたまだ。涙も、まるいたまだ。雨つぶもまるいたまだ。ところが、その雨が凍つて雪になると、もうまるくはない。ふわふわの①綿のようになってしまう。

顕微鏡ではじめて、その雪を見た人はだれだろう。その人はどんなにおどろいたろうか。顕微鏡で見えたのは、うつくしい花だった。それとも、すばらしい宝石だったか。しかし、みるみるうちに、その宝石はとけて水になった。やはり、雪だったのだろうか。見まわがいではなかったか。それとも、これは魔法かもしれない。でなかったら、だれが雪をそんなうつくしい花にしたのだろう。

雪の結晶をはじめて見た人は、あまりの意外さに、魔法にかけられたと思うかもしれません。ぴんと張りつめた放射状の六角形、その凛とした美しさ、なのに文字どおりに表すことがない。そこで、ことばの経路をワープして、「うつくしい花」「すばらしい宝石」と表します。本当は花や宝石でないのに、見た目には花や宝石であるのです。ここでは、「でな

い」と「である」が同居しています。

隠喩は、比喩のなかの比喩、比喩の女王です。ずばり喩えます。一瞬のうちに別なものに見立てるのです。雪は、あつというまに花や宝石と結びつく——このAの結びつきを保証するのが、¹似ているという感覚です。

似ているというのは、不思議な感覚です。どのようなときにそう感じるのでしょうか。親子なら、姿形が似るでしょう。では、友だちどうしはどうでしょうか。「類は友を呼ぶ」というように、趣味や考え方が似ることがあります。形ではなく、むしろ特徴が似ているのです。雪の結晶の場合は、花や宝石と形が似ているだけでなく、「うつくしい」「すばらしい」などという特徴も似ています。

似るには、二つの項が必要です。喩えられる項と喩える項です。雪の結晶は喩えられる項であり、花や宝石は喩える項です。この二つの項は、けつして対等ではありません。典型的には、喩える項は、ありありとよくわかる具象的なものであり、喩えられる項はいわく言いがたい抽象的なものです。雪の結晶は、喩えられる項でありながら、まだ具象性を保っているといえるでしょう。

では、喩えられる項が抽象的なものを考えましよう。たとえば、人生とは何か、と悩むことがあります。これに対するあらかじめ定まった答えはありません。人生ということばは、抽象的であり、「はいこれです」と目の前に示せるものではないからです。そこで、隠喩の経路をとりま

す。たとえば、「人生は旅」と考えます。すると、そこに人生の道、そこを歩む旅人の姿が浮かびます。

高村光太郎の詩『道程』にも道が現れます。

僕の前に道はない

僕の後ろに道は出来る

この「道」は、詩人としての人生の道のことをいっているのでしょう。

けつしてキザな表現ではありません。というのも、私たち一人ひとりが旅人だからです。将来の進路を迷うことはありませんか。そのとき「進

路」も「迷う」も、「人生は旅」の隠喩に従っています。ですから、slow

but steady (ゆくり着実) に歩んでいても、ふと気づくと曲がり角に

立っていたり、不覚にも倒れたり、ふたたび勇気を^②奮って立ち上がっ

たりしなければならぬのです。道そのものも、山あり谷ありでしょう。

「人生」の隠喩は、もちろん、旅に限りません。でたとこ勝負の賭^{かけ}とも

見なせるでしょう。^③芝居^{注1}ないし回り舞台とも見なせるでしょう。これ

らは、人生を旅と見るのとは違った見方です。もうおわかりでしょう。人

生観とは、隠喩観です。文字どおりのことばをもたない人生について考

えるには、なんらかの隠喩にたよるほかはないからです。²隠喩は、こ

のとき、ことばの飾りではなく、思考そのものとなります。

隠喩は、長い年月を経て、ことばの底にゆっくりと^④沈殿^④していきま

す。当初の輝きはしだいに失せていつて、ふつうのことばの一部となります。「道」はその一例でしょう。しかし、その輝きを完全に失っているわけではありません。むしろ、底光りしているといふべきでしょう。しゃぼんだまの「たま」もそれに近いかもしれません。露や涙や雨粒を「まるといたま」と見なすとき、「たま」はもう少し光を強めるようです。

(瀬戸賢一「日本語のレトリック」による。)

(注1) 回り舞台＝舞台の中央を円形に切り抜き、回転するようにした

装置。また、それを備えた舞台。

1 ①～④の漢字の読みを書きなさい。

2 A に当てはまる最も適切な四字熟語を、次のア～エの中か

ら選び、その記号を書きなさい。

ア 暗中模索 イ 千差万別 ウ 電光石火 エ 理路整然

3 ¹似ているという感覚 とあるが、筆者はどのようなときに感じる

ものだと述べていますか。解答欄に合う形で二十五字以内で書きなさい。

ただし、「似る」(活用した場合を含む)は解答に使えないものとする。

【資料】「このとき、ことばの飾りではなく、思考そのものとなり
ます」とあるが、どういうことか。「このとき」が示す内容を明らかに
しながら、六十五字以内で書きなさい。

5 文章を読んで隠喩に興味を持った福山さんは、学校図書館で、文章
中に取り上げられていた「人生」について、別の隠喩が用いられている
小説を見つけました。次の【資料】は、その小説の一部を抜粋したもの
です。また、【ノートの一部】は、福山さんが文章と【資料】を読んで
考えたことを表にしたものです。これらを読んで、【ノートの一部】の
空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまる最も適切な表現を、文章中からそれぞれ六字
以内で抜き出して書きなさい。また、空欄Ⅲに当てはまる適切な表現
を、十五字以内で書きなさい。

【資料】

「人生はバスケットの缶だと思えばいいのよ」

僕は何度か頭を振ってから緑の顔を見た。

「たぶん僕の頭がわるいせいだと思うけれど、ときどき君が何を言
っているのかよく理解できないことがある」

「バスケットの缶にいろんなバスケットがつまって、好きなのと
あまり好きじゃないのがあるでしょ？ それで先に好きなのどんど
ん食べちゃうと、あとあまり好きじゃないのばかり残るわよね。

私、辛い^{ツライ}ことがあるといつもそう思うのよ。今これをやっくとく^{ツク}とあ
とになって楽になるって。人生はバスケットの缶なんだって」

「まあひとつの哲学ではあるな」

「でもそれ本当よ。私、経験的にそれを学んだもの」と緑は言った。

(村上春樹「ノルウェイの森(下)」による。)

【ノートの一部】

○それぞれの隠喩から読み取れること

人生		雪の結晶	(I)	読み取れること
ビスケットの缶	旅	花や宝石	(II)	
人生とは、(III)ものであるということ。		雪とは、うつくしく、すばらしい放射状のものであるということ。 人生とは、不意に転機が訪れたり、困難に直面したり、奮起したりしながら送っていくものであるということ。		

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

近比、^{ちかきころ}帰朝の僧の説として、ある人語りしは、唐に^{もうこし}賤しき夫婦有り。近ごろ、唐から帰朝した僧の話として 身分の低い夫婦がいた

餅を売りて世を渡りけり。夫の道の^{ほとり}辺にて餅を売りけるに、人の袋を

暮らしを立てていた。夫が道端で餅を売っていた時に、誰かが袋を

注2

落としたりけるを見ければ、銀の軟挺六つ有りけり。家に持ちて帰りぬ。落としたのを見つけた中に、

妻、心¹すなほに欲なき者にて、「我等は商うて過ぐれば、事も欠けず。

欲のない者で、商いをして暮しているの不足なこともありません。

この主、いかばかり歎き求むらん。いとほしき事なり。主を尋ねて返この銀の持ち主は、どんなに嘆いて捜しているでしょう。気の毒なことです。捜して返

し給へ」と云ひければ、「誠に」とて、普く触れけるに、主と云ふ者してあげて下さい」と言うので、言い広めたところ、

出来て、是を得て、あまりに嬉しくて、「三つをば奉らん」と云ひて、この銀を受け取り、「このうち三つをさしあげましょう」

既に分かつかかりける時、思ひ返して、煩ひを出さんが為に、面倒を引き起こそうとして、

「七つこそ有りしに、六つあるこそ不思議なれ。一つは隠されたるにや」

と云ふ。「さる事なし。本より六つこそ有りしか」と論ずる程に、果てそのようなことはない。と言ひ合ううちに、ついに

注3

は、国の守の許にして、²是を断らしむ。

どちらが正しいか判断してもらうことになった。

国の守、眼賢くして、「このaは不実の者なり。このbは正直の者」
眼力にすぐれ、

と見ながら、不審なりければ、かの妻を召して別の所にて、事の子細を
と見抜いたが、
召し出して、別の場所で事情を細かく

尋ぬるに、夫が状に少しもたがはず。「このcは極めたる正直の者」
尋ねると、
夫の言い分と少しも食い違いが無い。

と見て、かの主、不実の事慥かなりければ、国の守の判に云はく、
と見てとって、
不実であることは確かとなったので、
判決には、

「この事、慥かの証拠なければ判じがたし。但し、共に正直の者と見え
この一件は確かな証拠がないので判定しがたい。

たり。夫妻また詞交らず、主の詞も正直に聞こゆれば、七つあらん
夫婦の証言は一致し、
七つあるという

軟挺を尋ねて取るべし。是は六つあれば、別の人のにこそ」とて、
別の軟挺を捜して取り戻すとよい。

³六つながら夫妻に給はりけり。
〔沙石集〕による。

(注1) 唐Ⅱ現在の中国。

(注2) 軟挺Ⅱ上質の銀。

(注3) 国の守Ⅱ国司。国の長官。

1 すなほに を、現代仮名遣いで書きなさい。

2 是を断らしむ について、どういう意見の食い違いを判断しても
らうことにしたのかを説明した次の文の（Ⅰ）・（Ⅱ）に当て
はまる適切な表現を、文章中からそれぞれ八字以内で抜き出して書き
なさい。

「主」は（Ⅰ）と言うが、「夫」はもとから（Ⅱ）と言
うので銀の軟挺の数が合わないということ。

3 文章中の a c に当てはまる最も適切な語を、次のア～エの中から
選び、その記号を書きなさい。ただし、同じ記号を二回選んではいけ
ません。

ア 国の守 イ 夫 ウ 妻 エ 主

4 六つながら夫妻に給はりけり とあるが、その理由について話し
合った生徒の会話を読んで、あとの問いに答えなさい。

【生徒の会話】

田中… 「六つながら夫妻に給はりけり」ってどういうことかな？
新井… 調べると、「給はる」は「与える」や「もらう」という意味
だから、この場合は国の守が夫妻に与えたということだろう
ね。

森山… そうか、主と夫妻の意見の食い違いを確認した上で、国の
守が、銀を拾った夫妻に六つ全て与えたということだね。

田中… 国の守は判決の前に「かの主、不実の事」が確かだと思っ
ているよね。それなのに判決では「共に正直の者と見えたり」、
つまり、（Ⅲ）と言っているよね。どうして
かな。

新井… そこがこの話のポイントだろうね。証言が食い違っている
のに、誰も嘘はついていないとすることで、嘘をついた者を
こらしめる…。

田中… そういうことか。どちらの証言も正しいならば六つの銀は、
（Ⅳ）ことになる。

森山… だから、「別の七つの銀を捜しなさい。六つの銀は落とし
主がわからないから拾った夫婦の物になる。」ということに
なるんだね。

新井… もしも落とし主が六つの銀を返してもらおうと思ったら、
（Ⅴ）しかないということになるね。

森山… そうだね。結局、正直が一番大切だということを作者は言
いたいのかもしれないね。

問い 会話文中の空欄Ⅲ～Ⅴに当てはまる適切な表現を、それぞれ十二
字以内で書きなさい。